



ダイコンはどこからが根でどこからがくきのね

ほんとうのねは、したぶんの2くらいのところから

ダイコンの根のように見える下3分の2が、ほんとうのねにあたる部分です。この部分には、よく見ると小さなひげ根が出ています。上3分の1は、根ともくきともつかない部分で芽生えのころのくき（これを幼軸といいます）が大きくなったものです。ふつう、首といわれている部分です。

はでぶぶんがくき

くきは葉が出ている部分です。葉を取り去って葉のついていたあとをよく見ると、アブラナ科の葉のつき方である、たがいちがいに規則正しくならんでおり、くきが、うんとつまった状態になっていることがわかります。（監修・中山 周平）

